

「遣唐使は見た! - 憧れの国際都市 長安 -」

“Witnessing the Greatest Medieval Cosmopolis: The Japanese Envoys to Tang China”

2013年11月1日(金)~2014年1月13日(月・祝)
Friday 1 November 2013 to Monday 13 January 2014

日本文化の源流ともいえる中国唐代の文物や制度をわが国にもたらした遣唐使。彼らエリートたちが命がけで何を目指し、何を見聞し、何を請来したのか、その実態に迫ります。

入館料 一般300円、小・中学生150円
Admission: ¥300 for Adults, ¥150 for primary and junior high school students

関連イベントなど詳細はホームページをご覧ください。
www.eurasia.city.yokohama.jp/



利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m.~5:00 p.m. (入館は4:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月28日~1月3日) 他

入館料 一般200円、小・中学生100円
※特別展・企画展開催中は料金が変更になることがあります。
毎週土曜日は、小・中学生、高校生無料
「障害者手帳」横浜市の「濱ともカード」等をお持ちの方
には、入館料免除の制度がありますのでお尋ね下さい。

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama,
Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m.-5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays and year-end
New Year's recess
(December 28 to January 3)

Admissions Adults: 200 yen
Children: 100 yen



アクセス

みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口すぐ
JR「関内駅」南口・市営地下鉄「関内駅」1番出口から徒歩約10分
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal Subway.

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース



目次 Contents

2 アートウォッチング Art Watching

馬上の麗人 Ladies on Horseback

福原庸子 Yasuko Fukuhara

4 ギャラリートーク Gallery Talk

特別公開 「シベリアの岩壁画拓本」 Featured Exhibit "Ancient Siberian Rock Art in Rubbing Impressions"

畠山禎 Tei Hatakeyama

6 蔵品紹介ー常設展示室からー The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

白釉藍彩パルメット文皿 Dish with Palmetto Design in Cobalt Blue

竹田多麻子 Tamako Takeda

8 蔵品紹介ー新収蔵資料ー The YMEAC Collection: Recent Addition

9 展覧会・催し物案内 Exhibitions and Events

10 ミュージアムショップへようこそ! Welcome to the Museum Shop

12 利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

アートウォッチング

福原庸子 Yasuko Fukuhara

馬上の麗人

Ladies on Horseback

前屈みで馬に話しかけているようなこの女性は、左手に手綱、右手にはマレット（曲杖）を持ち、ポロ（馬毬）に興じる唐の貴婦人です。ポロはササン朝ペルシアからシルクロードを経て中国に伝えられますが、唐初から鐙が普及したこともありブームに拍車がかかります。馬も西方の駿馬を大量に獲得することで、唐代にはかなり品種改良が進んでいました。貴族が男女問わずポロに夢中になったことは、貴族厚葬の風習により墓主の生前の豪華な生活や趣味を永続させるために制作された唐墓壁画（章懷太子墓墓道西壁）や、副葬品である俑の多くがポロを題材としていることが示しています。唐の貴族社会を魅了した胡（中国より西方）の文化は、胡服、胡食、胡粧、胡樂、胡舞、胡瓶、そしてスポーツと、多岐にわたっていたのです。この騎馬俑は、当時流行の双髻に髪を結い上げ、色鮮やかなブラウスと襟付きの胡服を着こなして、おしゃれもスポーツも最先端に行くアクティブな唐の女性を表しています。（図1）



図1 三彩女子騎馬俑
高32.6 cm 幅34.8 cm
馬の博物館蔵
Fig. 1 Horse with Female Rider,
Three Color Glaze
H. 32.6 cm W. 34.8 cm
Owned by Equine Museum
of Japan

展示期間：2013年11月1日（金）～12月1日（日）
On Display: 1st November to 1st December 2013

背筋を伸ばして馬に跨り、左手に手綱をとり遠くを見つめる女性の姿。丸首で袖の短い上着にタイトなブラウスとズボンという胡服をまとい、砂漠の砂を除ける頭巾をかぶっています。唐の高貴な女性が馬で旅立とうとする姿ですが、大きく美しい馬体や、鞍、鞍敷、鐙など馬具の形状までもが見事に捉えられ、唐代ならではの理想美を追求した表現といえます。乗馬の風習と馬の飼育法は、すでに4世紀から5世紀にかけて中国や朝鮮半島から日本へ伝わったと考えられていますが、唐の影響は遣唐使が行き来した奈良時代に鞍の形状に現れます。奈良正倉院所蔵の奈良時代後期作とされる鞍がその実例で、鞍の後部（後輪）が古代の直立位置から後方に傾斜するタイプに変化しました。唐代の俑は、もはや実物を見ることができない時代の馬具の形状も明らかにしてくれます。（図2）



図2 加彩女子騎馬俑
高36.3 cm 幅35.0 cm
馬の博物館蔵

Fig. 2 Horse with Female Rider, Painted Earthenware
H. 36.3 cm W. 35.0 cm
Owned by Equine Museum of Japan

展示期間：2013年12月3日（火）～2014年1月13日（月・祝）
On Display: 3rd December 2013 to 13th January 2014

Dressed in the “western” attire—round-neck, short-sleeve jacket and pants—the noble lady sits astride a horse, looking straight ahead. She covers her hair with a hood to avoid the city dust or desert sand from the Silk Road. The representation of the rider and the horse, down to such details as the above-mentioned clothing as well as the saddle and stirrups, are typical of Tang idealized naturalism. The custom of horseback riding and breeding had been introduced to Japan through the Korean peninsula by the early fifth century. During the 8th century, when Japanese envoys to China brought back elements of Tang culture, saddles changed in form following the Tang prototype. (Fig. 2)

これらの作品は、横浜ユーラシア文化館開館10周年記念特別展「遣唐使は見た！—憧れの国際都市 長安—」（2013年11月1日～2014年1月13日）に展示されます。

These works will be on display for the Special Exhibition Celebrating the 10th Anniversary of YMEAC “Witnessing the Greatest Medieval Cosmopolis: The Japanese Envoys to Tang China” (1 November 2013 to 13 January 2014.)

ギャラリートーク

畠山禎 Tei Hatakeyama

特別公開「シベリアの岩壁画拓本」

Featured Exhibit “Ancient Siberian Rock Art in Rubbing Impressions”

2013年7月9日(火)～9月16日(月・祝)
Tuesday 9 July to Monday 16 September, 2013



狩猟の場面
アルタイ地方ウスチーカン近郊岩壁画

Hunting scene
Near Ust'-Kan, Altai

右図は、前田潮『北方狩猟民の考古学』同成社、234頁より。

ロシア連邦の西部を南北に走るウラル山脈とそこから発してカスピ海に流れ込むウラル川。これが北方ユーラシアにおけるヨーロッパとアジアの境とされ、ここから東に広がる広大な地域をシベリアといいます。

シベリアには、岩壁画、岩画、岩刻画などと呼ばれる遺跡があります。丘陵に露出した岩壁や大きな岩の表面に動物などの図像が彫り込まれたものです。同じような遺跡は、モンゴル高原やカザフスタンなどにも知られ、その図像は遠く日本や北欧の遺跡とも比較されています。

2013年7月9日から9月16日まで、収蔵資料

からシベリアの岩壁画の拓本12点を初公開しました。日本人考古学者である前田潮氏が採掘され、2010年に同氏から当館にご寄贈いただいたものです。

展示した拓本の内6点は、1986年、当時のソヴィエト連邦と日本とが合同で行ったシベリアのアルタイ地方の考古学的調査の過程で記録されたものです。刻まれた線の鋭さや輪郭線で表わすという表現上の特

徴に加え、近くに突厥文字が刻まれていたことなどから、突厥の時代のもと考えられています。

その他の6点は、博物館や研究所に保管されていた岩壁画の拓本です。内4点は、青銅器時代後期とされる墓の石棺に再利用されていました。従って、岩壁画の表わされた年代は墓を築造した年代より古いと考えられます。

岩壁画は、年代を判断することの難しい遺跡です。単独で露出しており、伴出資料や層位といった年代を考えるための情報を伴わないものがほとんどだからです。明らかに時代の異なる図像が重複することも多く、問題を複雑にしています。その中で、このたび拓本で紹介した岩壁画は、ある程度年代を考えることができるという点で貴重です。

前田氏がアルタイ地方の考古学的調査に参加された1986年は、東西冷戦の続く時代であり、当時の日ソ合同調査は、まさに画期的なことでした。その調査で得られた拓本は、日本における北方ユーラシア考古学の研究史を語る上でも極めて重要な資料と言えるでしょう。

貴重な資料をご寄贈くださいました前田潮氏を始め、本特別公開にご協力いただきましたみなさま、ご来館いただきましたみなさまに、改めまして篤く御礼申し上げます。



Twelve rubbing impressions of ancient Siberian petroglyphs were exhibited in YMEAC. They were made and donated by archaeologist Professor Ushio Maeda.

The petroglyphs vividly depict people, goats, cattle, horses, deer, and hunting scenes. They show the daily life and the artistic eyes of people who lived in those days.

Among the rubbings are four of stone plates that were reused as tomb structures of the late Bronze Age.

Six of them were investigated by Japan-Soviet joint archaeological research in 1986, of which Professor Maeda was a member. The outlines of images are sharply carved and Old Turkic scripts were found nearby, hence these petroglyphs are also estimated to be of the same age.

Generally it is difficult to know the age of petroglyphs. The rubbings of petroglyphs exhibited in YMEAC are rare examples which have clues to their ages.

The archaeological research in 1986 was one of the first joint researches of Japan and the Soviet Union in the Cold War period. The exhibits were important not only for the study of petroglyphs but also the history of northern Eurasian archaeology in Japan.

蔵品紹介—常設展示室から—

竹田多麻子 Tamako Takeda

はく ゆう らん さい もん さら
白釉藍彩パルメット文皿

Dish with Palmetto Design in Cobalt Blue

白い地に鮮やかな青の色が映えるこの皿は、イラクを中心に西アジアを支配したアッバース朝（750～1258年）で作られた焼き物です。クリーム色の胎土に錫を使った白い釉薬が底部を除いた全体に施され、口縁から中央にかけて、パルメット文（ヤシのような植物の葉を扇状に広げた文様）が描かれています。おそらく、西アジアで古くから栽培されているナツメヤシの葉を表しているのでしょう。ナツメヤシは今でも人々の生活に欠かせない植物で、このあたりを旅するとどこでも見ることができます。また、反対側の口縁に見える文字は、文様化されたアラビア文字で、陶工の名前が書かれていると思われます。青の色はコバルト顔料を用いています。

この陶器が製作された9世紀頃は、アラブ人国家であったウマイヤ朝を打倒したアッバース朝がイスラーム帝国として大きく発展し、それに伴いイスラーム独自の文化が育まれた時代です。東西交易も盛んに行われ、大量の中国陶磁器が西側に輸入されました。実際にイラク、イラン、エジプトなどの遺跡からは中国陶磁片が多数出土しています。

今回ご紹介した資料は、中国の白磁を模倣して作られたと言われています。今までにない新しい焼き物に出会ったイスラームの陶工たち。白磁の白さに刺激を受け、それに似せようとしつつも、前時代の陶器とは異なる「イスラーム陶器」を生み出そうとする様子がうかがえます。初期のイスラーム陶器を代表する作品のひとつです。

This white dish with a bright blue design is an example of early Islamic pottery from the Abbasid Dynasty (750–1258) which ruled Middle East (present-day Iraq and surrounding countries). White tin-glaze is applied to the whole except the foot, with a fan-like palmetto design in the center. This motif may have come from the leaves of date palms that still grow prevalently in West Asia.

Its blue colors were produced from the cobalt pigment. The inscription on the rim appears to be the name of the potter.

The Abbasid Dynasty is considered to be part of the Islamic Golden Age, and under its rule Islamic culture flourished. East-West trade was also at its height, and a large amount of Chinese ceramics was imported to the West. Such Chinese ceramic pieces have been excavated from the ruins of Iraq, Iran, and Egypt.

Inspired by the whiteness of Chinese porcelain, the Islamic potters attempted to imitate the techniques by combining their traditional pottery making skills with those of the Chinese. This gradually evolved into the “Islamic Pottery” with a distinctive style.



イラク、イラン／9～10世紀／口径23.1cm 高6.7cm

Iran or Iraq, 9th–10th century. D. 23.1 cm, H. 6.7 cm

The YMEAC Collection: Recent Addition (April to August 2013)

蔵品紹介—新収蔵資料—

2013年4月から8月までに41点の学習教材をご寄贈いただきました。夏休みを迎え、早速体験ワークショップなどに活用させていただいております。ご寄贈くださいましたみなさま、ご寄贈に当たりご協力を賜りましたみなさまに篤く御礼申し上げます。

なお、出版物につきましては、点数が多いため本誌ではご紹介しておりません。整理ができ次第、熟覧に供する資料はインターネットの目録に掲載、学習教材として受贈いたしました出版物は、2階展示室内ライブラリーでご利用いただいております。どうぞご活用ください。 ※ライブラリーの図書は入れ替えがありますのでご了承ください。

ワークショップでモンゴルの
民族衣装を試着
Malgai (cap) and deel, Mongolia
寄贈：兵庫個人
Donated by Hyogo private
collector



大きい！重い！中は空洞！
マンモスの牙
Mammoth tusk
寄贈：吉田智恵子
Donated by Chieko Yoshida



カザフスタンの男性用民族衣装
Outer garment, Kazakhstan
寄贈：横山裕平
Donated by Yuhei Yokoyama



ウズベキスタンの
男性用衣装
Outer garment
Uzbekistan
寄贈：石井正紀
Donated by Masamichi Ishii

(敬称略)

展覧会・催し物案内 Exhibitions and Events

展覧会 Exhibitions

横浜ユーラシア文化館開館10周年記念特別展
コスモポリス
遣唐使は見た！—憧れの国際都市 長安—
Special Exhibition Celebrating the 10th Anniversary of YMEAC
"Witnessing the Greatest Medieval Cosmopolis: The Japanese Envoys to Tang China"
2013年11月1日(金)～2014年1月13日(月・祝)
Friday 1 November 2013 to Monday 13 January 2014
観覧料 一般300円、小・中学生150円
Admission: ¥300 for Adults, ¥150 for primary and junior high school students

特別公開「自鎭庁至烏斯藏程站輿図」

Featured Exhibit "Map of the Routes from Luting to Tibet"
2013年12月10日(火)～12月23日(月・祝)
Tuesday 10 to Monday 23 December 2013
観覧料 一般200円、小・中学生100円
Admission: ¥200 for Adults, ¥100 for primary and junior high school students
会場 2階常設展示室「伝える」コーナー
Permanent Exhibition Gallery

催し物 Events

横浜ユーラシア文化館開館10周年記念特別展
コスモポリス
「遣唐使は見た！—憧れの国際都市 長安—」関連企画

■ シンポジウム 「遣唐使とユーラシア世界」

要お申込み

開催日 2013年12月1日(日)
時 間 10:00～16:15
会 場 横浜市歴史博物館講堂
定 員 170名(応募者多数の場合は抽選)
申込締切 2013年11月20日(水) 必着
参加費 1000円
共催 横浜市歴史博物館

■ 講座「福をよぶ中国結び お話しと作品づくり」

要お申込み

開催日 2013年12月23日(月・祝)
時 間 14:00～16:00
会 場 1階図書コーナー
講 師 みなみりょうこ
定 員 15名(応募者多数の場合は抽選)
申込締切 2013年12月13日(金) 必着
参加費 一般500円／小・中学生200円(小学4
年生以上) ※材料費込

■ ギャラリートーク

開催日 2013年 11月10日(日)、24日(日)、
12月8日(日)、22日(日)、
2014年 1月5日(日)、13日(月・祝)
時 間 14:00～(1時間程度)
会 場 3階企画展示室

■ ワorkshop「中国結びと剪紙」

開催日 特別展開催中の土曜日、日曜日、祝日
時 間 9:30～16:30
参加費 無料
会 場 1階図書コーナー

■ ビデオ上映「生きた正倉院・雅楽」

上映日 特別展開催中の土曜日、日曜日、祝日
時 間 9:30～17:00
会 場 1階ギャラリー

月イチ講座

月に一度、気軽にきけてタメになる30分。

2014年1月18日(土) 館蔵シベリアの岩壁画拓本
講師 畠山禎
2月22日(土) 中国漢代の絵画について
講師 福原庸子
3月29日(土) 館蔵ガラス資料
講師 竹田多麻子

時 間 14:00から30分程度
会 場 1階ギャラリー
定 員 30名
受講料 各回200円

※お申し込み不要。直接会場にお出で下さい。
※当日は常設展示室を無料で観覧いただけます。
※2013年10月～12月の月イチ講座は横浜都市発
展記念館の担当です。こちらにもぜひご参加く
ださい。詳細はホームページでどうぞ！

ゲルに集まれ！

モンゴルの伝統的な移動式住居ゲルを中庭で
公開。組立て、解体にご参加いただけます。

組立て 2014年3月8日(土) 9:30～(雨天順延)
解体 2014年3月16日(日) 16:30～
公開期間 2014年3月8日(土)～16日(日)
時 間 9:30～17:00

ただし、3月8日は組立て終了後、16日は16時30分ま
での公開となります。
3月10日(月・休館日)はゲルの中にはお入りいただけま
せん。

開館11周年感謝イベント

2014年3月15日(土)、16日(日)
横浜ユーラシア文化館・横浜都市発展記念館に
無料でご入館いただけるほか、たのしいイベ
ントを企画しています。詳細は決まり次第ホーム
ページ、チラシでお知らせします。

中庭で Dai Do Gei!

2013年10月から2014年3月まで、毎月第2日曜(予定)
に当館中庭で大道芸! 詳細はホームページで!

お申込み方法 お申し込みの必要な企画につきましては、イベント名、住所、氏名、電話番号をお書きの上、当館ホーム
ページからまたは往復はがきでお申し込み下さい。1通につき2名様までお申し込みいただけます。
2名様でお申し込みの場合は2名分の住所、氏名、電話番号をお知らせください。

お申し込み先 ホームページ www.eurasia.city.yokohama.jp/
往復はがき 〒231-0021 横浜市中区日本大通12 横浜ユーラシア文化館「イベント」係



ミュージアムショップへようこそ！
Welcome to the Museum Shop!

受け継がれる
伝統的な文様

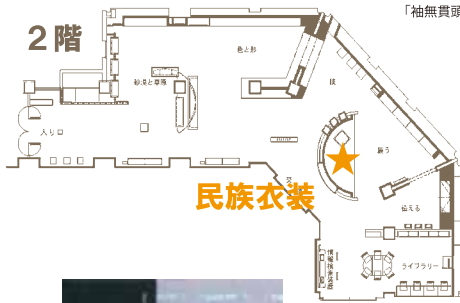


メモ帳 (カレン族) ¥200

民族衣装のデザインから再発見！ 「装う」ことから伝えたいこと

2階の常設展示室の奥にある、大きなガラスケース。ここは「装う」をテーマにタイの山岳民族の衣装や装身具を紹介するコーナーです。

色鮮やかな糸で刺繍が施された民族衣装は、もちろん、手作業で祖先から伝承された技法によるもの。ここにご紹介するタイのカレン族の衣装「袖無貫頭型上衣」は既婚女性の日常着です。白い糸のように見える部分をよく見ると、植物の種を飾りとして使っていることがわかります。身近なものを採取し、工夫を凝らしているのです。日本で大量生産されている衣類とは、比較にならないくらい手間のかかる工程を経て完成する民族衣装。それを日常着として着用しているのだから、彼らは心豊かで、日々満ち足りた生活を送っているのでしょう。



カレン族の民族衣装
「袖無貫頭型上衣」



A5 クリアファイル (ヤオ族) ¥200



A5 クリアファイル (カレン族) ¥200



A5 クリアファイルは「News from EurAsia」の冊子と同じサイズ。小さめのカバンにも入ります。



ボールペン (カレン族) ¥150



ボールペン (ヤオ族) ¥150



1階のミュージアムショップは入場料無料です。
open 9:30 ~ 17:00

横浜都市発展記念館
横浜ユーラシア文化館